

令和4年度学校評価に関するアンケートの結果と改善策について

1 確認事項

(1) 改善策を検討するに当たっての基本的な考え方について

- ・回答者数が少ない項目は少数の意見でも平均値に大きく影響してしまうため、平均値だけで改善策の検討が必要か判断するのは難しい。そのため、4段階評価を行っている自己評価（職員アンケート）と保護者アンケートに関しては、各項目の平均値に加え、達成度も確認することとする。

〔参考〕「達成度」の考え方

ここでいう「達成度」とは、各項目において、高い評価（4と3）をした人の割合のことである。つまり、達成度が高い場合には、平均値に関係なく、高い評価（4と3）をした人が多く、低い評価（2と1）をした人が少ないことを意味する。達成度が低い場合は、その逆を意味する。

- ・自由記述に書かれた内容は、少数の意見であっても学校運営を見直す上で貴重な資料となるため、改善策の検討が必要かどうかは記述内容を確認して判断する。

(2) 学校全体で改善策を検討する項目の選定方法について

以下の条件に該当する項目について、改善策を検討することとする

【条件1】平均値が低かった項目

- ・自己評価（職員アンケート）と保護者アンケートにおいて、全体集計の平均値が4段階評価の中央値（2.5ポイント）を下回った項目。
- ・児童生徒アンケートにおいて、全体集計の平均値が3段階評価の中央値（2.0ポイント）を下回った項目。

【条件2】平均値が顕著に下降した項目

- ・全体集計において、各項目の平均値が昨年度より0.5ポイント以上下降した項目は、達成度や自由記述の内容を確認の上、改善策の検討が必要か確認する。

【条件3】達成度が低かった項目

- ・自己評価（職員アンケート）及び保護者アンケートにおいて、全体集計の達成度が80%以下の項目。

【条件4】その他（自由記述の内容など）

- ・自由記述で指摘があった内容に関する項目で、改善策の検討が必要であると判断した項目。
- ・所属部署ごとの集計において、平均値や達成度の数値から改善が必要であると判断した項目。

(3) 学校全体で改善策を検討する項目以外の項目について

①評価が高かった項目

学校全体で改善策の検討はしないが、評価結果に甘んじることなく、今後もこれまでの取組を継続しながら、更に充実・発展させることとする。

②一部の評価が低かった項目

所属部署ごとの平均値や達成度、自由記述の内容などを見ると、学校全体で改善策を検討することにはならなくても、改善に向けた取組が望まれる項目が浮かび上がってくる。その場合は、資料を参考にしながら、所属部署ごとに改善策を検討し、実践することとする。

2 アンケートの集約結果について

(1) 職員アンケートについて

【概況】

- ・回収数は55、回収率は100%であった。
- ・全体集計において、平均値の最大値は3.6ポイント（昨年度は3.7ポイント）、最小値は3.0ポイント（昨年度は2.9ポイント）であった。
- ・全体集計において、達成度の最大値は100.0%、最小値は81.1%であった。

【条件1】

- ・全体集計において、4段階評価の中央値（2.5ポイント）を下回った項目はなかった。

【条件2】

- ・全体集計において、各項目の平均値が昨年度より0.5ポイント以上下降した項目はなかった。

【条件3】

- ・全体集計において、達成度が80%以下の項目はなかった。

【条件4】

- ・多くの項目に関して自由記述があった。
- ・所属部署ごとの集計において、達成度が80%以下の項目が多数あった。
 - ※小学部：NO.19、NO.24、NO.25の3項目。
 - ※中学部：NO.14の1項目。
 - ※西大村分教室：NO.19、NO.21、NO.22、NO.23の4項目。
 - ※寄宿舎：NO.3、NO.6、NO.9、NO.25の4項目。

(2) 保護者アンケートについて

【概況】

- ・回収数は38、回収率は90%であった。
- ・全体集計において、評価値の最大値は4.0ポイント（昨年度は3.8ポイント）、最小値は3.2ポイント（昨年度は3.3ポイント）であった。
- ・全体集計において、達成度の最大値は100.0%、最小値は84.0%であった。

【条件1】

- ・全体集計において、4段階評価の中央値（2.5ポイント）を下回った項目はなかった。

【条件2】

- ・全体集計において、各項目の平均値が昨年度より0.5ポイント以上下降した項目はなかった。

【条件3】

- ・全体集計において、達成度が80%以下の項目はなかった。

【条件4】

- ・自由記述が複数あった。
- ・所属部署ごとの集計において、平均値が中央値（2.5ポイント）を下回った項目はなかった。
- ・所属部署ごとの集計において、達成度が80%以下の項目はなかった。

(3) 児童生徒アンケートについて

【概況】

- ・回収数は53、回収率は87%であった。
- ・全体集計において、評価値の最大値は3.0ポイント（昨年度は2.9ポイント）、最小値は2.1ポイント（昨年度は2.0ポイント）であった。

【条件1】

- ・全体集計において、3段階評価の中央値（2.0ポイント）を下回った項目はなかった。

【条件2】

- ・全体集計において、各項目の平均値が昨年度より0.5ポイント以上下降した項目はなかった。

【条件3】

- ・達成度を算出していないため、該当項目の選定はできない。

【条件4】

- ・自由記述は複数あった。
- ・所属部署ごとの集計において、平均値が中央値（2.0ポイント）を下回った項目があった。
 ※西大村分教室小学部：NO.2、NO.3、NO.5、NO.7、NO.11、No.13の6項目。
 ※西大村分教室中学部：NO.11、NO.13、NO.15の3項目。

3 改善策を検討する項目と改善策について

(1) 職員アンケート及び保護者アンケートに関して

- ①選定の条件【条件1、2、3】に該当する項目：なし
- ②選定の条件【条件4】に該当する項目：NO.1、NO.2、NO.3、NO.6、NO.19、NO.24、NO.25

No.	具体的評価内容
	改善策案
1	<p>学校の教育目標及び教育方針は、児童生徒の実態に合っており適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末に、今年度の取り組みと課題を整理し、次年度に必要となる対応策について話し合い、教室環境などを整備しておく。 ・年度初めに校長の学校経営方針や学校のランドデザインの説明を受け、全職員で目指す児童生徒像について再確認する。また、個々の児童生徒の実態に合った目指す姿を明確にして、日々の指導にあたる。 ・学部会以外の時間でも必要に応じて、児童生徒の実態や学級経営の現状などについて、学部で共有する時間を設定し、課題解決のための対策案を検討する。
2	<p>学級の経営目標及び教育活動は、保護者との共通理解ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の面談の際に、学校教育目標を保護者と確認しながら年間目標や支援内容を考えるなど、保護者にも学校教育目標を確認していただく機会を作る。 ・学級、学年通信などで、経営目標に関連した活動について紹介し、保護者の理解が得られるよう、工夫する。
3	<p>学校は、児童生徒に付けさせたい力を明確にし、教育実践に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画と寄宿舎の支援計画を関連付けることができるような書式に改善し、身に付けさせたい力を明確にして、一貫した指導にあたる。
6	<p>学校行事は、児童生徒の実態に合っており、活動内容も創意工夫されている。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・行事への取り組み方、発表・参加の仕方については、学部内で十分検討し、学部の実情に応じて計画をする。 ・あかね祭については、「学年ごとのステージ発表」を前提とせず、児童生徒の実態に合わせてプログラムの内容を検討する。 ・儀式行事も含め会場をホストにして遠隔での参加ができるように、行事前にはリモート参加の有無を確認し、準備を行う。
19	<p>学校は、児童生徒の学習目標に沿った教材・教具が整備されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初、夏季休業中に、必要な教材・教具について検討し、各教科担当者から購入希望を出すようにする。
24	<p>学校の情報は、地域の方や関係機関、関係諸学校（小中学校及び進学先等）に向けて発信されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりの内容を外部向けのものにしてホームページに公開する。 ・ホームページを整理し、学校案内パンフレット等をホームページにあげる。 ・コーディネーター研修会など、外部との研修会の場で学校紹介等を行う。
25	<p>育友会活動は、会員が参加しやすい工夫がなされ、学校と保護者が協力して取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以前に実施していた清掃活動やレクリエーション、保護者バザーなどの企画を再検討する。 ・育友会活動の計画・運営に教職員も参加・協力する。

(2) 児童生徒アンケートに関して

- ①選定の条件【条件1、2、3】に該当する項目：なし
- ②選定の条件【条件4】に該当する項目：なし

5 来年度に向けて

- ・今回提示した改善策を意識しながら、学校経営を進めていく。
- ・現在の自己評価（職員アンケート）及び保護者アンケートは評価項目が少なく、具体的に評価することが難しい部分があるため、来年度は、質問内容や項目数を見直す。
- ・保護者からの気付きや要望等は、学校評価の時期だけでなく、学級懇談や育友会活動の機会を利用して聞き取り、対応できることは早めに改善案を出し、対応する。